

菱田春草《白牡丹》 1901 (明治34) 年頃  
絹本・彩色/山種美術館



1966年、日本初の日本画専門の美術館として開館した山種美術館は、2021年に開館55周年を迎える。これを記念し、同館では花を描いた華やかな絵画で美術館を満開にする特別展「百花繚乱」が開催される。

日本では古くから、四季折々を彩る花を愛で、詩歌に詠い、絵画や工芸のモチーフとして表してきた。とりわけ絵画では、中世以来、中国から伝来した花鳥画や草花図などに基づきながら、一つの種類の花を主役にした作品

から、四季花鳥図のように、本来は開花時期の異なる花々を一面面に同時に描いた作品まで、多彩な花の表現が展開された。明治以降になると、それまでの美意識を引き継ぎつつ、近代的な感覚や季節感、西洋絵画の手法などを取り入れながら、新たな花の表現が模索され、個性豊かな作品が生み出されている。

本展では、近代・現代の日本画を中心に、四季を感じさせる花の名画が一堂に会する。桜を描いた横山大観『春

川端龍子《牡丹》 1961 (昭和36) 年/絹本・彩色/山種美術館



開館55周年記念特別展

## 百花繚乱 —華麗なる花の世界—

■ 4月10日(土) ~ 6月27日(日) 山種美術館

田能村直入《百花》(部分) 1869 (明治2) 年/絹本・彩色/山種美術館

